

目 次

- ・平成19年度 大学・大学院入学式 ……3
- ・平成19年度 入学式学長訓辞
学 長 今井久夫 ……3
- ・平成19年度 入学式理事長式辞
理事長 今井久夫 ……5
- ・平成19年 春の叙勲受章者 ……7
- ・平成19年度 ハイテク・リサーチ・センター
整備事業に田中教授の組織が選定 ……7
- ・平成19年度 解剖体慰霊祭 ……7
- ・平成18年度 事業報告 ……8

- ・平成18年度 監事監査報告 ……11
- ・平成18年度 決算報告 ……12
- ・平成19年度 父兄会・共済会総会 ……17
- ・学位（博士）授与報告 ……17
- ・第15回公開講座開催要領決定 ……17
- ・学外向けHPリニューアル ……17
- ・寄 贈 ……17
- ・人 事 ……18
- ・あ と が き ……28



平成19年度大学・大学院入学式（平成19年4月9日）

平成19年度 大学・大学院入学式

平成19年4月9日(月)午前10時より、平成19年度大阪歯科大学ならびに大学院入学式が挙行された。

式典は開会の辞で始まり、国歌斉唱の後、大学128名、大学院18名の入学許可が宣され、今井学長が訓辞ならびに理事長としての式辞を述べ、無事滞りなく終了した。入学式終了後、引き続いて父兄会ならびに共済会が開催された。



平成19年度 入学式学長訓辞

学長 今井 久夫



例年に無く暖冬が続き、入学式の象徴とも言われております桜前線上陸の便りも、例年よりも1～2週間早いとの予想が全国各地から届けられていますこの良き日に、平成19年度の大学・大学院入学式が挙行さ

れるに際しまして、本学教員を代表して、学長としてのお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

本日晴れて念願の本学に入学されます128名の学部学生の皆さん、誠にありがとうございます。心より祝意を表させていただきます。

また、このめでたい入学式に際しまして、年度始めの何かとご多忙な中にもかかわらず、曲げてご臨

席頂きましたご父兄に対しまして、高い所からではございますが、厚く御礼申し上げます。また、本日ご臨席頂いております多くのご父兄におかれましては、今日の日を鶴首の思いで待ち望まれておられた事とお察し申し上げますが、反面、ご子弟の入学という喜びや精神的安堵感が得られはしたものの、入学後に控えているご子弟の健康管理に対する不安、講義や実習を主体とする専門教育に対する取り組みや学内外における対人関係を含めた諸々の大学生活適応への不安、さらには6年間にわたるご子弟の学費や生活費等に対する不安など、諸々の環境変化に伴う精神的・肉体的疲労ならびに経済的負担への不安などが交錯する複雑なご心境であろうとお察し申し上げます。そこで、本日ご入学されました学生さんに対しまして、お祝いと同時に、この6年間の本学学生としての心構えを二つ申し上げたいと思います。

まず、一つ目は、私が学長に就任以後、毎年入学式には申しております「当たり前をボヤーとせず、ちゃんとやれ」という事です。これは、イラク戦争の際、日本政府のイラク復興支援として最初に派遣された自衛隊の隊長である番匠幸一郎氏が隊員に向かって言われた「まず、我々が当地で行うべき事は何か」をローマ字のA、B、Cに例えて『A：当たり前』を『B：ボヤーとせず』『C：ちゃんとやれ』と諭された言葉です。そこで、本日から晴れて本学の学生として在籍される皆さん方も、本学の建学の精神を忘れず、学則を守り、他人に迷惑を及ぼさないことは勿論ですが、学生としての本分をわきまえ「授業やクラブ活動等にはちゃんと出席、参加をし、講義や人の話などはボヤーと聴かず、何事にも一生懸命に取り組む～この当たり前の事」の実行に努めて頂きたく願っております。この学生としての当たり前の事が出来ないようであれば留年、退学といった苦い経験を負わざるを得ない結果を招くであります。

二つ目は、「能力の差は小なり、されど努力の差は大なり」という事です。本日入学を許可されました皆さん方は、推薦、一般の違いはあるにしても、試験の結果から選抜されたわけです。周知のように、入学試験のような選抜試験では好むと好まざるとにかかわらず、ペーパーテストや小論文等による成績順位を付けてはなりません。このペーパーテストという、単なる一回の試験結果の良し悪しだけでは、その人の持

っている潜在能力までも知り得ることは不可能です。従いまして、本日入学をされました128名の皆さん方の能力には差は無いものと確信致しております。問題は、入学後における努力の有無が大きく左右するということです。私自身も在職40年以上の教員生活にあって、入学時には成績順位が下位であったにもかかわらず、年ごとに成績が上がり、卒業時にはトップクラスの成績で国家試験も無事合格された学生さんたちを数多く知っております。反面、入学時には成績が良かったにもかかわらず、学年が上がるにしたがって成績が下降し、留年された事例も経験しております。この差はどこにあったかと言えば、入学後におけるその学生の学業等に対する努力と取り組む姿勢に差が生じたからであります。この学業に専念するという姿勢の有無は、教員サイドから見れば一目瞭然であることを付言しておきます。

なお、ご父兄に対しましては、周知のように本学は私立歯科大学であります。その同窓を中心とした私立歯科大学であるという特殊性を勘案しまして、入学という門は、若干広くはさせて頂いております。しかし、時と場合によっては進級という門、卒業という出口は少々狭くなるということをお心に銘じて頂きたいということです。私たち教職員は、ご父兄からお預かりしました歯科医師の卵を『普遍の愛』でもって孵化させるように努力を致します。そのためには、日常の授業や生活態度等には、その指導も厳しさを増すことを覚悟してもらわなくてはなりません。どうか本学の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、大学院に入学されました18名の皆さん、本日は誠におめでとうございませぬ。皆さん方の多くは、昨年度から義務化されました卒後臨床研修を修了され、その上で難関な試験にも見事に合格された精鋭揃いであると言っても過言ではないと確信致しております。また、ご父兄におかれましても、ご子弟の晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのこととお察し申し上げます。反面、これからの4年間、いろんな面で『大変だなあ』とも感じておられ、その胸中は複雑な思いが去来していることとお察し致します。

大学院生の皆さん方は、すでに歯学士の免許を取得されておられるわけですが、なお、その上の博士（歯学）の取得を目指されるわけですが。しかし、その道の

りは平坦ではなく、厳しいことも覚悟しなくてはなりません。それだけに、その志がまっとうできた時の喜びは筆舌には尽くせないものと思います。そこで、大学院生の皆さん方には「結果は報われなくても、その努力は力となって残っていく」という言葉をお贈りしたいと思います。貴方がたは、今後、より崇高な歯科医学の探究を目指し、研究に臨床に勤しまれるわけですが、とりわけ、研究面においては、失敗を重ね、行き詰まりを覚えながらも、努力を惜しまず忍耐強く進めていかれることと思ひます。しかし、その努力が報われず、期待した成果が得られないことも、この4年の間には度々遭遇されることと思ひます。そのような苦境の中にあっても、途方にくれることなく、「この努力は将来、必ず実となり力となって残り、研究面に反映される」と確信されることです。そして、二度や三度の失敗にも挫けることなく、努力を重ねていけば必ずや皆さん方が期待していた2倍にも3倍にも相当する満足感と達成感をより強く味わえる研究成果が得られるものと信じ、頑張られますことを重ねて強調させて頂きます。

最後に、本日の大学・大学院の入学式に際し、本学の教職員、在校生一同を代表して、学長としてのお祝い的一端を述べさせて頂きましたが、学部学生にとりましては6年間一貫教育というカリキュラム、大学院生にとっては4年間の研究生生活をまっとうするのに、最も大事なことは、日常の勉学に勤しめる健康管理にあることは明白であります。どうか、学生・大学院生自らによるセルフケアは言うまでもありませんが、ご父兄におかれましても、常日頃からのご子弟に対する健康管理に細心の心配りをお願いしまして、学長としての訓辞とさせて頂きます。



平成19年度 入学式理事長式辞
理事長 今井 久夫



入学式の象徴でもある、桜の便りが全国各地から送られてくるこの良き日に、ご来賓の皆様、関係各位の方々をはじめ、多くのご父兄にご臨席を賜り、128名の学部学生ならびに18名の大学院生による平成19年度の入学式が挙行できましたこと、誠にめでたく、喜びにたえません。あらためまして、教職員を代表し、学部学生、大学院生、ご父兄の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

それではまず、本日をもって、晴れて本学の学生となられた学部学生の皆さんに理事長として、ひと言お祝いを申し述べさせていただきます。

本学は1911年(明治44年)に創立され、2011年には100周年を迎えようとする伝統ある歯科大学であります。貴方がたも今日から我々と共に、諸先輩の築かれた大学愛、校風、そして同窓としての絆を汚すことなく受け継いでいかれるわけです。言葉を換えますと、入学された一人ひとりが本学に入学した目的意識をしっかりともち、同時に本学の『建学の精神』を根幹とした教育方針を理解し、勉学はもとより、生活面にあっても、常識を失うことなく、また個性も大切にしてください。そして、将来は国内に止まらず、国際的にも通用するプロフェッショナルな歯科医師になられん事を切望致します。

なお、ご父兄におかれましては、本学の授業料が他歯科大学に比べ、極めて高いように思われていることと思いますが、トータルで考えて頂ければ決して高くはないものと考えております。例えば、本学には他の私立歯科大学および私立大学歯学部では類をみない、本学独特の救済制度があります。周知のように、人生には上り坂と下り坂があります。しかし、最も気を付けなくてはならないのが、真坂という坂です。もしも、そのような真坂という深刻な事態が親権者に生じた場合にあっても、ご子弟が安心して勉学に勤しめるような制度、すなわち授業料が免除となる制度があるという事です。なお、その上にご子弟に対する学費支

弁等で支障が生じた場合にありましても、共済会からの貸付制度もあります。

さて、皆さん方も周知のように、去年の12月に厚生労働省から出されました「今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上等に関する検討会中間報告」によりまずと「国家試験の平均点数引き上げ、歯科大学・歯学部学生養成定員の削減」が大きく取り上げられ、国家権力とも思われかねない強引な方法での教育改革が行われようとしています。とりわけ、国家試験そのものが本来は資格試験であるにもかかわらず、選抜試験の様相が極めて強くなる事は事実であります。この事は、貴方がた学生さん達にとっても、大学にあっても由々しき問題であります。しかし、国家試験の平均点数引き上げが、実施の方向に向かって進められている事は明確であります。これら歯科教育の流れに鑑みた場合、今年入学されました学生さんも含めた現在の学部在学生にとっては、今まで行われてきた進級や卒業の資格基準も益々、厳しさを増す事は事実であります。この教育改革も、従来のような知識を一方的に教え込むのではなく、自らが学び、自らが考える力と豊かな人間性を育む教育すなわち、質の高い歯科医師を養成しなくてはならないといった、国の教育方針にも繋がっているといっても過言ではありません。

そこで、本日、本学に入学された皆さん方に、楽しくより充実した実り多い6年間を過ごして頂く為に『NPO学園生活』の言葉をお贈り致したく思います。周知のようにNPOとは“Non-Profit Organization”の略で、皆さん方もこのNPOの言葉はよく耳にしたり、目にされたりしていると思いますが、非営利機構あるいは組織を意味しております。しかし、私が皆さん方にお贈りしたい“NPO”とは、『N；人情』『P；ポリシー(Policy)』『O；恩義』の3つで、この言葉を忘れないように願っておきます。すなわち、「N；人情＝人間としての他人に対する思いやりの気持ちを忘れず、P；ポリシー＝将来に向かっての堅実で賢明な行動、O；恩義＝今日までお世話になった人達から授かった温情などに対する感謝の念」であります。換言しますと、本日入学されました学生さんたちのすべてが、人情(N)という家族は勿論、友人や後輩等に対する思いやりと、将来どのような歯科医師を目指しているのかといった将来に向かってのポリシー(P)、そして恩義(O)すなわち現在の恵まれた環境を授けて頂い

た両親や恩師、先輩たちなどへの恩を忘れないでほしいという事を重ねて強調させて頂き、理事長としての学部学生に対する式辞とさせていただきます。

さて、大学院に入学されました18名の皆さん、本日は誠におめでとうございます。なお、今回大学院に入学されました方々は、歯学士の免許を取得され、しかも必修化されました1年間の卒後臨床研修を修了されたにもかかわらず、より崇高な歯科医学を探究するため、さらなる研究の道を選ばれたわけではありますが、その心意気には敬意を表させていただきます。

さて、本日大学院に入学されました皆さん方には、ご存知の方も多いと思いますが、学校教育法の改正に伴い、今年4月1日から全国の大学教員組織が大きな様変わりを呈するようになりました。すなわち、従来の教授、助教授、講師、助手から教授、准教授、講師、助教に職制が変更され、職責も大きく変わります。最も大きな相違は助手と助教であります。すなわち、学校教育法の改正により、助手は「教育研究の実施に必要な業務に従事する者」とされ、助教は「修士又は専門的学位以上の学位を有し、大学の教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する者」と規定され、助手と助教の職責に対する大きな違いを示しております。しかも、助教は将来の教授、准教授へのキャリアパスとして位置付けがなされる大学正教員として

の出発点でもあることを示し、文部科学省もこの助教が将来の大学における教学面での中核となるに相応しい者であることを示唆し、その最右翼に位置するのが大学院修了者であるとして、大学院教育の充実に努めているのが現状であります。この我が国の高等教育に関する意向からも分かりますように、本学にあっても、本日入学されました大学院生に対する期待は極めて大きい事を強調させていただきます。

なお、今回大学院に入学されました皆さん方は、博士(歯学)の学位取得を目指されるわけですが、その前途は厳しいものと予想されます。そこで、貴方がたには、『もし成功しなかったら試みよ、さらに試みよ』の言葉をお贈りしたいと思います。周知のように、研究結果の成功を得るのは生易しいものではありません。幾度となく失敗を重ねながら、成功へと繋がっていくのです。それだけに満足な研究成果が得られた事による価値は大きく、満足感にも浸れるわけです。このことが、貴方たちを人間的にも、歯科医療人としても一回りも二回りも大きくし、求められる医療人として大きく成長していかれるのです。

望むらくは、この4年間は国内のみに止まらず、海外にも目を向けられ、よりプロフェッショナルな歯科医療人を目指して頂きたくご祈念申し上げ、理事長としての大学院入学式での式辞とさせていただきます。



平成19年 春の叙勲受章者

平成19年春の叙勲において大阪歯科大学関係の先生方が、以下の通り受章されました。

叙 勲

専門 29 回	太田 義邦	京都府	瑞宝中綬章
専門 32 回	志水 和夫	兵庫県	瑞宝双光章
大学 1 回	青野 正男	福岡県	瑞宝中綬章
大学 3 回	川添 光一	高知県	旭日双光章
大学 5 回	安達 舜二	徳島県	瑞宝双光章
大学 8 回	白神 進	徳島県	旭日双光章

平成19年度ハイテク・リサーチ・センター整備事業に田中教授の組織が選定

平成19年4月24日付け文部科学省からの通知により、同省が私立大学の研究基盤の整備及び研究機能の高度化を支援する「私立大学学術研究高度化推進事業」の一つである「平成19年度ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に、大学院研究科科長の田中教授(病理学・写真)を代表とする研究組織が選定された。田中教授自身は平成10年度に続き、本学でも2度目のことである。



田中教授らは、同整備事業に「歯周病とメタボリックシンドロームとの双方向性発症の解明」及び「歯周組織の再生を促進する分子・細胞学的解明」の2研究について申請しており、審査により他の23の研究組織とともに平成19年度の新規事業として認められたものである。研究期間は原則として5年、3年目に中間評価、5年目に事後評価が義務付けられている。支援措置として、1億円を限度に研究施設費は1/2以内の補助、研究費・研究スタッフ経費については原則として5年間補助される。今後、田中教授らは文部科学省に計画調書等を提出し、補助を受けることになる。

田中教授らの研究組織は、中央歯学研究所所長の大浦教授の了承を得て中央歯学研究所内に設置され、研究を行うことになる。

平成19年度 解剖体慰霊祭

新緑の五月晴れの中、5月24日(木)午後2時より四天王寺五智光院において、平成19年度解剖体慰霊祭が500名を超える参列のもと、厳かに執り行われた。

開式のことばののち、解剖学講座諏訪教授から祭文が奉読された。導師の読経が始まり、荘厳な雰囲気の中で、尊いご遺体を捧げられた御霊のご冥福を祈念して参列者一同焼香を行った。続いて、大阪歯科大学を代表して今井理事長・学長から、歯科医学の教育研究発展のため篤志をもってご献体いただいた故人、ならびに長年変わらぬご理解とご協力を賜っている黄菊会会員の方々に深甚なる謝意が表され、献体者故高梨善雄殿ほか9名のご遺族に対して文部科学大臣感謝状が授与された。最後に、学生を代表し第3学年太田恵里さんが、解剖実習を無事終えたことに対する感謝のことばを霊前に寄せ、参列した学生全員が立礼をして感謝の気持ちを表した。

慰霊祭終了後、ご遺族ならびに各参列者は元三大師堂の本学慰霊碑前へ移動して回向を行った。また、客殿では黄菊会第35回総会が開催され、会務報告等議題を円滑に終え、本年度慰霊祭は恙なく終了した。



平成18年度 事業報告

周知のように、私立歯科大学の管理・運営、教員の資質向上および学生獲得等厳しい問題が山積しており、各歯科大学間での競争意識が高まっている。



本学でも、これら大学間の競争的環境を踏まえ、平成18年度では限られた予算および人材の下、教育・研究・臨床面における教職員の資質向上、学生教育の充実、研究面のレベルアップ、臨床面での「POS理念」の確立を進め、本学の持続的な発展を図るべく事業計画案を示した。そこで、その実績を事業報告書に示すものである。

平成18年度事業計画項目は、以下の10項目である。

- I. 管理・運営
- II. 教学（教育・研究）
- III. 附属病院
- IV. 教員組織の改正と資質向上
- V. 情報化社会への対応
- VI. 専門学校
- VII. 国際交流
- VIII. 創立100周年記念事業への対応
- IX. 大学と地域住民との連携
- X. 施設・設備の整備他

I. 管理・運営

- 1. 平成18年度も収入増の期待は薄いことから、人件費、研究費、事務費、管理・設備費等、すべての経費について前年比10%減を予算方針とした。
- 2. 他私立歯科大学等の給与体系に鑑み、平成19年度中での完全実施を目標に18年度では、基本給や退職金の引き下げ、諸手当の整理等給与規程の改正に着手し、全教職員を対象に説明会を行った。
- 3. 平成19年度からの実施を目途に定年年齢の引き下げ、任期制と教員評価の導入にも着手した。
- 4. 平成19年4月から実施される教員職制の改正(助教、講師、准教授、教授)に伴い、全教職員に対し教学、事務職に対する専念義務の自覚と資質向上に努めるべく、開業の実態調査を行うとともに開

業は禁止とした。

- 5. 病院の収入増と臨床医としての自覚を促すべく、平成19年度から新しく病院医員を設置するため、具体案を決定した。また、社会的・教育的立場からみた必要な診療科の設置等に関しても、平成19年度より行うこととした。
- 6. 専門学校、とりわけ歯科技工士専門学校の数年間にわたる低い入学者数を勘案して、学生定員ならびに教員数の半減に着手した。
- 7. 私立歯科大学間での学生獲得に対する競争的環境を踏まえ、サイバーキャンパスを軸にオープンキャンパス、ホームページ等の強化に着手した。
- 8. 本学100周年記念事業ならびに国際交流については、前年度から継続した事業計画を立案したが、具体化までには至らず、多くの用件を19年度に持ち越した。

II. 教学（教育・研究）

—学部教育—

従来6年一貫教育の推進・充実、大学院教育の充実、同時に社会からも認められるような全人教育の推進を図り、また共用試験や国試対策にも最善の努力を行うことを旨とした。

- 1. 前年度に継続して、将来の医療人として欠かせない生命の尊さや健康の大切さ、医療の必要性等について、入学当初から種々な福祉施設を実際に見学・体験させ、ボランティア精神の尊さ・大切さを学ばせた。
- 2. 今年度から必修化、義務化された共用試験（コンピューターシステムを活用した医学・歯学的知識の有無を評価するCBTと、臨床的スキルや態度を評価するOSCE）の充実に努めた。
- 3. 前年度から始めた人権教育に関しても、その内容をより充実させ、同時に学生自身が考えることを基本に、本学で人権教育を担当している講師と学長、そして学生とによるワークショップを実施した。
- 4. 今年度の6学年は旧カリキュラムによる教育を受けてきた最後の学年であるが、そのためこれまで進級や卒業に対して甘い考え方が抜けきれず、再三の注意を行ってきたが、その効果も見られず、最後の手段として卒業のハードルを少し厳しくし

た。結果として18名の留年者を出したが、それにもかかわらず国家試験の合格率が悪く、反省材料だけが数多く残った。

5. 本学においては平成14年から教員個々の資質向上への取り組みの一環として、年間2回程度のファカルティ・ディベロップメント (FD ; Faculty Development : 個々の才能, 能力開発) を実施してきたが、本年度は共用試験での学生の医学・歯学的知識を評価するため、CBTを取り上げることとなった。
6. 人の尊厳を理解し、人権意識の高揚を図ると同時に、実社会での実践力を養わせるために、学生はもとより全教職員をも対象に今年度も天満橋学舎と楠葉学舎において人権講演会を開催した。

－大学院教育－

大学院も切り詰められた予算の下、研究活動を余儀なくされることは明白であったが、研究に対する意欲と自己研鑽への意欲は失わないように指導した結果、それなりの成果は得られたと思われる。

1. 講座研究費のみに頼らず、国からの科学研究費など他の研究助成の申請にも目を向けるべき努力を促した。
2. 課程博士である以上は、研究そのものもインパクトファクターの高い学術誌に掲載される論文内容とすべく努力を促した。
3. 大学院生には、研究修了後は今回の教員職制規程の改正に伴い、教育・研究の中核となって大学をリードしていく自覚と努力を促した。

－研究－

前年度に続き、研究面も限られた予算の範囲内で行わなくてはならない厳しさは避けられず、各人が種々工夫を凝らして研究に従事し、頑張ってくれた。

1. 今年度は講座単位にとらわれず、多くの研究者が一堂に会して同一テーマでハイレベルの研究を行うべく、ハイテク・リサーチ・センター (私立大学学術研究高度化推進事業) を設置して申請を行ったが採択されず、次年度にも改めて申請することとなった。
2. 限られた予算では無理があるため、多種多様な研究助成機関への申請はもとより、講座教員全員に

科学研究費の申請を義務付けることとした。

3. インパクトファクターの高い学術誌への論文公表を促すと同時に、将来的に日常の臨床にも応用可能な研究内容を有していることを強く要望した。

Ⅲ. 附属病院

平成18年度の事業計画として、臨床研修歯科医の養成事業、地域に密着した歯科医療の推進 (i 協力医療機関との連携協力, ii 病診連携を中心とした広報活動の推進, iii 診療場統合化の実現, iv 診療体制の充実化) など数多く事業計画を掲げ、その実現に向かって努めてきた。しかし、平成18年12月に実施された厚生労働省と大阪府による特定共同指導への対応に追われ、考えていた以上に計画の実現が捗らず、大半が次年度送りになった。

1. 平成18年度の事業計画には無かったものの、病院収入増と診療専念を期待して、従来の常勤・非常勤研修医制度を無くし、新しく病院医員制度を19年度から採り入れるべく諸規程等を整備した。
2. 病院医員は週に3日間、常勤の医員と同様に勤務し、診療に従事して頂き (週に2日は自由)、卒直後の臨床研修歯科医師の手当て等を勘案の上、診療手当てを支給するようにした。
3. 臨床研修歯科医の養成事業、地域に密着した歯科医療の推進 (i 協力医療機関との連携協力, ii 病診連携を中心とした広報活動の推進, iii 診療場統合化の実現, iv 診療体制の充実化) など数多く事業計画を掲げたが、本格的実施には至らなかった。

Ⅳ. 教員組織の改正と資質向上

本項目に関しては、平成18年度の事業計画には無かった項目である。しかし、平成19年4月1日から改正学校教育法が施行されるために、必要事項については今年度から着手した。すなわち、教育研究上の組織編成を考慮し改正した。

1. 平成19年4月1日実施を目途に、従来の助手、講師、助教授、教授の4職階を助教、講師、准教授、教授とすることを決定した。
2. そこで、当面は助手を助教に講師を講師へと移行させることとしたが、助教、講師の新職責を勘案して、総務部委員会や大学院委員会委員が中心となって審査を行い、新職責として欠けている事項

に関しては、学長名で努力目標として指摘し、注意を促した。

3. 今回の改正により最も大きな職責変化を呈したのが助教職である。すなわち、従来の助手のように教授および助教授の職務を助ける立場から、「修士または専門職学位以上の学位を有する者で、大学の教育・研究を担当するに相応しい教育上の能力を有する者である」と規定されていることから、職責の移行に際し、学位未取得者には条件付きで学位の取得に努める事を義務付けた。
4. 今回の改正における最大の意図は、教職員とりわけ教員の「教育職としての専念義務の責を負う」ことにあるため、開業の調査を行い、開業者に関しては今年度末をもって「廃業届」の提出あるいは「依願退職」のいずれかを選択するように指示した。
5. 任期制を採用し、任期ごとに評価を行うことについて、現在小委員会を設立し、平成19年度内には正規の評価委員会による基準内容を設定する予定である。
6. 本学では、2011年に迎える創立100周年を目指して、教学の中核となる教員の育成に努める必要があると考える。

V. 情報化社会への対応

1. 本年度は、学長の命により副学長を中心としたサイバーキャンパス整備事業検討委員会を立ち上げ、細部にわたる検討がなされた。
2. ホームページに関しても、本学の学生や同窓、ご父兄、地域住民などへの発信は従来通り継続しながら、相手方からの受信も積極的に取り入れられるシステムを目指して検討が進められてきた。また、やむを得ない理由により欠席した教科についての情報も得られるべき方向で進められている。
3. サイバーキャンパス整備事業検討委員会のより充実を図るために、総務部長を委員長としたサイバーキャンパス・ホームページ委員会を新しく設立し、学長から委員の指名が行われた。
4. サイバーキャンパスの一層の充実を図るため、他の歯科大学、歯学部との連携を密にし、教育情報の交換も図り、将来に向けての実践も具体的に行われた。

5. 国外との情報交流に関しても、従来の中国、韓国、オーストラリアのシドニー大学、米国のコロンビア大学にとどまらず、ホームページ等により広く欧米に目を向けることが確認された。

VI. 専門学校

歯科界の現況を示すかのように、歯科衛生士専門学校、歯科技工士専門学校のいずれもがこの2～3年間は定員割れの状況を呈しているにもかかわらず、人件費を主体とする年間予算は、旧態依然の状態であることを念頭に種々の改善が考えられた。

1. 歯科衛生士専門学校は平成17年に3年制へ移行、牧野学舎への移動に伴い、学生定員割れの状況が続いているが、平成22年4月からの全国一斉の3年制移行時までは、受験生の2年制選択の意向が強いと考えられるため、受験生確保には今以上の努力と叡智を發揮したい。
2. 前述のように、本学の歯科衛生士、歯科技工士専門学校の経営状況は正常であるとは言えない。そこで、理事会において平成18年度の事業計画には無かったが「専門学校財務改善等検討委員会」を急遽新設し、両専門学校の将来問題について検討を行っていくこととした。
3. 歯科技工士専門学校に関しては、諸般の事情を勘案して、平成20年度からは学生定員数を従来の半数である45名に削減し、同時に教職員数も平成19年度からは半数に削減した。
4. 今年度も前年度同様、両専門学校教職員により受験生の確保や本専門学校の特徴等をPRすべき努力は十二分に行われてきたが、その効果はあまり表れず、次年度に帰するべきことが多い。

VII. 国際交流

1. 平成18年度も8月に四川大学110周年記念、9月には南方医科大学・本学との交流10周年記念を祝し、同時に交流をより深めるために訪中した。
2. 前年度に継続して、中国の二つの大学と本学2講座とによる共同研究が実施された。
3. コロンビア大学「インプラントセミナー2005」に継続して、本年度はコロンビア大学から数名の学生が本学を訪れ、学生間同士の友好が深められた。なお、韓国の大学からも本学訪問の希望学生があ

ODU NEWS No.147

(資金支出の部)

人件費支出は、本務教職員給、兼務教職員給、退職金等の支出であり、私学共済事業団掛金、労働保険料、退職金財団掛金、非常勤講師の給与のほか、平成18年度から臨床研修歯科医師に対する給与を人件費として支出しています。退職金支出は、定年退職、みなし定年退職、依願退職者の退職金です。教育研究経費支出

は大学、附属病院、専門学校における教育、研究、診療等の経費であります。そのうち医療経費は附属病院の医療材料等の診療経費で、学生厚生費は社会福祉施設体験学習実習費、学内食堂補助費、学生賠償損害保険料、学生定期健康診断料、学友会援助金、大学祭補助、歯学体補助金等です。

平成18年度資金収支計算書			
(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)			
(単位：円)			
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	5,560,850,000	5,468,310,000	92,540,000
手数料収入	39,695,000	38,612,850	1,082,150
寄付金収入	26,200,000	28,550,000	△ 2,350,000
補助金収入	607,115,000	575,761,067	31,353,933
資産運用収入	255,020,000	360,101,984	△ 105,081,984
資産売却収入	0	0	0
事業収入	2,131,000,000	1,761,141,972	369,858,028
雑収入	301,417,000	899,686,912	△ 598,269,912
前受金収入	1,319,850,000	1,261,510,000	58,340,000
その他の収入	1,705,810,000	2,798,179,701	△ 1,092,369,701
資金収入調整勘定	△ 1,798,210,000	△ 2,347,613,881	549,403,881
小計	10,148,747,000	10,844,240,605	△ 695,493,605
前年度繰越支払資金	2,161,037,956	2,161,037,956	
収入の部合計	12,309,784,956	13,005,278,561	△ 695,493,605
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	5,643,971,000	6,394,192,144	△ 750,221,144
教育研究経費支出	1,764,269,643	1,699,173,774	65,095,869
管理経費支出	860,461,000	818,650,151	41,810,849
施設関係支出	56,516,000	76,600,500	△ 20,084,500
設備関係支出	124,934,925	106,105,117	18,829,808
資産運用支出	1,443,178,000	1,895,579,687	△ 452,401,687
その他の支出	456,810,000	437,728,491	19,081,509
[予備費]	(36,003,568)		63,996,432
資金支出調整勘定	△ 295,279,000	△ 394,219,889	98,940,889
小計	10,118,858,000	11,033,809,975	△ 914,951,975
次年度繰越支払資金	2,190,926,956	1,971,468,586	219,458,370
支出の部合計	12,309,784,956	13,005,278,561	△ 695,493,605

(注) 予備費使用内訳

教育研究経費支出	修理費支出	1,764,643
施設関係支出	建物支出	26,250,000
設備関係支出	教育研究用機器備品支出	7,988,925
	合計	36,003,568

3. 消費収支計算書

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、事業収入等の法人の負債にならない収入の合計をいいます。附属学校の入学者数、医療収入が予算を下回り 91 億 5,100 万円になりました。また基本金組入額は 1 億 300 万円で、帰属収入から基本金組入額を控除した消費支出に充当することができる消費収入は 90 億 4,800 万円となり、予算に対比して 1 億 7,200 万円の増となりました。

4. 貸借対照表

資産の部合計は、593 億 8,200 万円で有形固定資産減少は、減価償却と機器備品の廃棄によるものです。負債の部合計は、84 億 9,000 万円で退職給与引当金と前受金が主なものです。基本金の部合計は、733 億 3,500 万円で前年に比べて 7,500 万円の増となっております。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算書の翌年度繰越消費支出超過額と一致しています。

平成 18 年度消費収支計算書 (平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)			
(単位：円)			
消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	5,560,850,000	5,468,310,000	92,540,000
手 数 料	39,695,000	38,612,850	1,082,150
寄 付 金	56,200,000	48,251,118	7,948,882
補 助 金	607,115,000	575,761,067	31,353,933
資 産 運 用 収 入	255,020,000	360,101,984	△ 105,081,984
資 産 売 却 差 額	0	0	0
事 業 収 入	2,131,000,000	1,761,141,972	369,858,028
雑 収 入	301,417,000	899,686,912	△ 598,269,912
帰属収入合計	8,951,297,000	9,151,865,903	△ 200,568,903
基本金組入額合計	△ 74,822,000	△ 103,113,828	28,291,828
消費収入の部合計	8,876,475,000	9,048,752,075	△ 172,277,075
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	5,499,420,000	5,982,073,268	△ 482,653,268
教 育 研 究 経 費	2,840,759,643	2,796,157,812	44,601,831
管 理 経 費	978,557,000	936,253,463	42,303,537
資 産 処 分 差 額	0	3,400,972	△ 3,400,972
徴 収 不 能 額	0	0	0
[予 備 費]	(1,764,643)		98,235,357
	98,235,357		
消費支出の部合計	9,416,972,000	9,717,885,515	△ 300,913,515
当年度消費支出超過額	540,497,000	669,133,440	
前年度繰越消費支出超過額	21,802,099,170	21,802,099,170	
基本金取崩額	0	27,527,420	
翌年度繰越消費支出超過額	22,342,596,170	22,443,705,190	

(注) 予備費使用内訳
 教育研究経費 1,764,643
 修理費

ODU NEWS No.147

貸借対照表

(平成19年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	56,316,206,219	57,397,084,449	△ 1,080,878,230
有形固定資産	24,408,532,569	25,424,755,480	△ 1,016,222,911
土地	5,397,487,608	5,397,487,608	0
建物	12,360,119,150	12,674,118,828	△ 313,999,678
建物附属設備	4,042,011,843	4,662,694,637	△ 620,682,794
構築物	245,145,192	252,167,317	△ 7,022,125
教育研究用機器備品	1,170,782,922	1,255,748,113	△ 84,965,191
その他の機器備品	64,763,357	70,422,420	△ 5,659,063
図書	1,119,997,034	1,101,540,963	18,456,071
車輛	8,225,463	10,575,594	△ 2,350,131
その他の固定資産	31,907,673,650	31,972,328,969	△ 64,655,319
電話加入権	6,626,468	6,626,468	0
有価証券	40,667,803	40,667,803	0
長期貸付金	358,973,000	405,753,000	△ 46,780,000
第3号基本金引当特定資金	29,619,183,467	29,592,136,727	27,046,740
退職金引当特定資金	311,928,750	389,599,233	△ 77,670,483
減価償却引当特定資金	991,406,947	991,406,947	0
有価証券購入資金引当特定資金	112,956,422	109,567,283	3,389,139
医療機器購入資金引当特定資産	141,266,390	120,112,108	21,154,282
記念行事引当特定資産	60,026,003	40,006,000	20,020,003
敷金・保証金	2,405,000	2,405,000	0
学生奨学金貸付金	262,233,400	274,048,400	△ 11,815,000
流動資産	3,066,229,036	2,918,299,107	147,929,929
現金・預金	1,971,468,586	2,161,037,956	△ 189,569,370
未収入金	1,077,623,881	734,077,926	343,545,955
貯蔵品	9,103,509	8,462,185	641,324
前払金	8,033,060	14,721,040	△ 6,687,980
資産の部合計	59,382,435,255	60,315,383,556	△ 932,948,301
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	6,217,160,750	6,593,695,077	△ 376,534,327
退職給与引当金	6,217,160,750	6,593,695,077	△ 376,534,327
流動負債	2,273,796,281	2,264,190,643	9,605,638
未払金	379,498,849	368,195,431	11,303,418
前受金	1,261,510,000	1,269,990,000	△ 8,480,000
預り金	290,688,233	248,321,464	42,366,769
賞与引当金	342,099,199	377,683,748	△ 35,584,549
負債の部合計	8,490,957,031	8,857,885,720	△ 366,928,689
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	43,043,999,947	42,995,460,279	48,539,668
第3号基本金	29,619,183,467	29,592,136,727	27,046,740
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	73,335,183,414	73,259,597,006	75,586,408
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	22,443,705,190	21,802,099,170	641,606,020
消費収支差額の部合計	△ 22,443,705,190	△ 21,802,099,170	△ 641,606,020
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	59,382,435,255	60,315,383,556	△ 932,948,301

注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

- ・徴収不能引当金
金銭債権の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。
- ・退職給与引当金
退職金の支給に備えるため、期末要支給額 6,021,188,998 円をもとにして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額の 100%を計上している。
- ・賞与引当金
賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当年度に対応する金額を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

- ・有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。
- ・所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
- ・預り金その他経過項目に係る収支の表示方法
預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。
- ・減価償却の方法等について
残存価額を零円とする定額法による減価償却を実施している。耐用年数は、学校法人委員会報告第 28号による耐用年数を採用しており、主な耐用年数は以下のとおりである。
建 物 50年
建物附属設備 15年
機器備品 10年
- ・減価償却資産の計上基準について
取得日後 1 年を超えて使用する有形固定資産(土地、建設仮勘定、図書を除く。)のうち、1 個又は 1 組の金額が 10 万円以上のものを減価償却資産として計上している。ただし、学生生徒が使用する机、椅子等は少額重要資産として金額の多寡に関わらず教育研究用機器備品に計上している。

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 18,679,913,736 円

4. 徴収不能引当金の合計額 0 円

5. 担保に供されている資産の種類及び額 0 円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 53,472,826 円

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

(単位 円)

	当年度 (平成 19 年 3 月 31 日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	40,667,803	301,675,677	261,007,874
(うち満期保有目的の債券)			
時価が貸借対照表計上額を超えないもの			
(うち満期保有目的の債券)			
合 計	40,667,803	301,675,677	261,007,874
(うち満期保有目的の債券)			

(2) 偶発債務

- ・当学校法人を被告とする医療訴訟 3 件について係争中であり、182,337,343 円の損害賠償請求を受けている。
- ・平成 18 年度において行なわれた、附属病院に対する厚生労働省及び大阪府による特定共同指導を受けた結果、医療収入の返還が生じる見込みである。なお、返還金額は現時点では未確定である。

(3) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

- ・通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは次のとおりである。

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	20,053,425 円	11,483,535 円
その他の機器備品	20,344,251 円	5,315,081 円

平成19年度 父兄会・共済会総会

平成19年度父兄会・共済会総会が6月30日(土)午後1時から、楠葉学舎講堂において開催された。

当日、287名のご父兄が出席するなか、河見前幹事長、沖田新幹事長ならびに今井学長の挨拶のあと、大東学生部長から学内報告が行われた。また、平成18年度父兄会・共済会決算報告ならびに平成19年度予算案の報告があり、承認された。

総会終了後、学年別個人懇談会が行われ、学年指導教授ならびに助言教員からご子弟の就学状況、生活指導等についての話が個別に行われた。

学位(博士)授与報告

中辻勇志 乙第1493号 (平成19年6月27日)

機能下における表面処理が異なるインプラント体周囲の骨と微細血管構築

田治米元信 乙第1494号 (平成19年6月27日)

In vitroにおけるエナメル質の脱灰に及ぼす糖タンパク質およびフッ化物応用の影響

中矢健二 乙第1495号 (平成19年6月27日)

わが国の成人における口腔保健状態の世代間格差

松浦 修 乙第1496号 (平成19年6月27日)

Prevotella intermedia のバイオフィルムを構成する菌体外多糖成分が貪食細胞に及ぼす影響

水川健司 乙第1497号 (平成19年6月27日)

難治性根尖性歯周炎病巣から分離したバイオフィルムを形成する Escherichia hermannii の粘性物質産生に関わる遺伝子クラスター

第15回公開講座開催要領決定

今年で15回目を迎えた大阪歯科大学公開講座の開催要領が決定した。今回から、本学が2011年に迎える創立100周年のプレ記念事業として開催される。メインテーマは「知りたい最新歯科治療ー“8020”運動支

援病院としての取り組みー」で、平成19年8月18日から9月8日まで4週にわたり毎土曜日の午後2時から午後4時、附属病院西館5階の臨床講義室において天満橋講座が開催される。また、来年2月から3月にかけて楠葉学舎講堂で枚方講座が開催される。

講師と演題は次のとおり。

- ①お迎えはまだまだ早い“めし”の味
ー歯の大切さと入れ歯の役割ー 井上 宏
- ②口腔インプラント治療を受ける前に 江藤隆徳
- ③専門病院ならではの小児・障害者
歯科治療 大東道治
- ④誰もが知りたい歯周病の予防と治療 上田雅俊

学外向けHPリニューアル

神原総務部長を委員長とするホームページ委員会において、学外向けHPのリニューアルが進められており、コンテンツが揃い次第更新される。



寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学第35回卒業(珊瑚会)

卒業20周年を記念して 平成19年6月26日寄贈
学術研究奨励基金として 500,000円也

人 事

称号授与

名誉教授 川本 達雄
H. 19. 4. 1付

新 任

副学長 川添 堯彬
副学長 中村 正明
総務部長 神原 正樹
教務部長 中村 正明
学生部長 大東 道治
図書館長 堂前 尚親
附属病院病院長 井上 宏
大学院研究科科长 田中 昭男
中央歯学研究所所長 大浦 清
教育情報センター所長 豊田 紘一
国際交流部長 諏訪 文彦
附属病院副病院長 覚道 健治
附属病院副病院長 小正 裕
附属病院副病院長 小谷順一郎
以上 H. 19. 4. 1付

教員採用

化学教室 助教 牧田 佳真
口腔解剖学講座 助教 高間 敬子
生理学講座 助教 成瀬 真弓
生理学講座 助教 藤本 哲也
生化学講座 助教 堂前 英資
薬理学講座 助教 中塚 隆介
口腔衛生学講座 助教 神 光一郎
歯科保存学講座 助教 鈴木康一郎
歯科保存学講座 助教 西田 尚敬
歯周病学講座 助教 大西 伸尚
歯周病学講座 助教 金村 直子
歯周病学講座 助教 河野 智生
欠損歯列補綴咬合学講座 助教 奥田 恵司
歯科矯正学講座 助教 太田千佳子
歯科矯正学講座 助教 坂本恵美子
歯科放射線学講座 助教 蒲生 祥子
小児歯科学講座 助教 竹安 正治
臨床研修教育科 病院助教 黒川 千佳
以上 H. 19. 4. 1付

歯科保存学講座 助教 岩田 有弘
高齢者歯科学講座 助教 田中 栄士
内科学講座 助教 有城久美子
以上 H. 19. 6. 1付

昇 任

生化学講座 准教授 鎌田 愛子
口腔衛生学講座 准教授 三宅 達郎
歯科放射線学講座 准教授 古跡 孝和
生理学講座 講師 井上 博
生化学講座 講師 合田 征司
口腔衛生学講座 講師 土居 貴士
歯科放射線学講座 講師 板垣 恵輔
歯科放射線学講座 講師 四井 資隆
以上 H. 19. 4. 1付

出向解除

口腔外科学第二講座 助教 山本 浩貴
H. 19. 4. 1付

学校教育法改正に伴う役職名変更

准教授 檜 則章, 藤田 淳一
柘植 昌保, 藤原 眞一
長家 秀博, 竹村 明道
内橋 賢二, 西川 哲成
山中 武志, 篠原 光子
武田 昭二, 馬場 忠彦
岡崎 定司, 田中 昌博
前田 照太, 虫本 浩三
中嶋 正博, 神原 敏之
嘉藤 幹夫, 佐久間泰司
大久保 直, 湊川 徹
助教 池 宏海, 上村 守
中塚美智子, 相川 文子
吉川 美弘, 富永 和也
益野 一哉, 古川 智代
杉森千恵子, 増田 吉彦
橋本 典也, 秋山 真理
谷本 啓彰, 初岡 昌憲
村田 文子, 至田 宗泰
西川 郁夫, 池永 英彰
稲本 雄之, 辻 則正
緒方智壽子, 民上 良将
田口洋一郎, 小野 圭昭

井上 太郎, 浅井 崇嗣
 川本 章代, 土佐 淳一
 田中 順子, 佐藤 正樹
 鳥井 克典, 藤井 孝政
 吉峰 茂樹, 畦崎 泰男
 呉本 晃一, 山本 さつき
 田伏 信, 松本 和浩
 木下 智, 山田 耕治
 堀井 活子, 山本 浩貴
 窪 寛仁, 蠅庭 秀也
 後藤 基宏, 西浦 亜紀
 本田 領, 蓮舎 寛樹
 林 靖久, 園本 美恵
 中野 智子, 人見 さよ子
 渡邊 京子, 杉岡 伸悟
 加藤 裕彦, 橋本佳代子
 平岡 篤信, 澤井 宏文
 青木 秀哲, 城山 明宏
 米谷 裕之, 辻 一起子
 松本 晃一, 永目 誠吾
 辻 準之助, 紺井 拡隆
 井上 雅裕
 尾形 圭五, 米田 護
 金平裕久美, 山田 裕
 河合 江実
 藤田 淳一, 玉田 善堂
 西川 哲成, 山中 武志
 篠原 光子, 武田 昭二
 岡崎 定司, 田中 昌博
 前田 照太, 中嶋 正博
 嘉藤 幹夫, 佐久間泰司
 戸田 伊紀, 合田 征司
 魚部 健市, 真下 千穂
 古川 智代, 大島 浩
 橋本 典也, 川崎 弘二
 土居 貴士, 白石 充
 小野 圭昭, 楠本 哲次
 柏木 宏介, 吉田 博昭
 木下 智, 熊 雅彦
 松本 尚之, 古跡 孝和
 四井 資隆, 百田 義弘

病院准教授

病院助教

大学院准教授

大学院助教

加藤 裕彦, 宮前 雅見
 以上 H. 19. 4. 1付

大学院教員任用

大学院准教授 内橋 賢二, 神原 敏之
 大学院講師 井上 博, 高橋 一朗
 大学院助教 緒方智壽子, 田口洋一郎
 西浦 亜紀
 以上 H. 19. 4. 1付

職員採用

附属病院 看護師 多方 陽子
 附属病院 看護師 月足 梨絵
 附属病院 看護師 汀 一美
 附属病院 看護師 山崎理恵子
 附属病院 歯科衛生士 松原 摩依
 以上 H. 19. 4. 1付
 附属病院 薬剤師 岸本 篤子
 H. 19. 5. 1付
 附属病院 看護師 山下 恵美
 H. 19. 6. 1付

異動・昇進

大学院課 主任 山田 市子
 H. 19. 4. 1付

昇 進

同窓会事務局 課長待遇 鷹尾富貴子
 歯科学会事務局 主任 中司 裕子
 口腔衛生学講座 研究技術職主任 上根 昌子
 附属病院 看護師主任 福澤美智子
 以上 H. 19. 4. 1付

所属異動

病院事務部 事務長 東野 隆
 内部監査室 室長 安藤 孝幸
 施設課 一般技術主任 田中 修
 病院庶務課卒後研修担当 主任 杉浦 雅之
 医事課 主任 岩本 匡生
 経理課 事務職員 田中 敬子
 教務学生課 事務職員 小谷 泰生
 大学庶務課 事務職員 下田 照子
 病院庶務課庶務担当 事務職員 宇野 綾
 病院庶務課卒後研修担当 事務職員 朝岡真知子
 医事課 事務職員 中辻ときみ
 医事課 事務職員 新谷 弘子

歯科技工士専門学校事務室 事務職員 北山恵美子
 歯科衛生士専門学校事務室 事務職員 森下より子
 以上 H. 19. 4. 1付

所属・職種変更

教育情報センター事務室 主任 野中登貴男
 総務課総務担当 事務職員 仲宗根幸男
 総務課総務担当 事務職員 赤石 孝博
 教務学生課 事務職員 齋藤 俊司
 医事課 事務職員 西嶋 耕治
 附属病院 歯科技工士 明崎 納
 附属病院 歯科技工士 辻 正敏
 附属病院 歯科技工士 東 宗秀
 以上 H. 19. 4. 1付

兼 務

総務課広報担当 課長 種坂 隆志
 大学院課 課長 牧谷 弘幸
 中央歯学研究所事務室 室長 牧谷 弘幸
 病院庶務課卒後研修担当 課長 東野 隆
 以上 H. 19. 4. 1付

兼務解除

歯科衛生士専門学校事務室 事務長 東野 隆
 総務課広報担当 一般技術主任 田中 修
 以上 H. 19. 4. 1付

勤務地異動

総務課総務担当 牧野学舎 事務職員 仲宗根幸男
 施設課 天満橋学舎 一般技術主任 田中 修
 教務学生課 楠葉学舎 事務職員 川田伊佐子
 教務学生課 天満橋学舎 事務職員 池田 英子
 教育情報センター事務室 天満橋学舎
 主任 野中登貴男
 以上 H. 19. 4. 1付

依願退職者

附属病院 看護師 多方 陽子
 H. 19. 5. 31付
 眼科 病院助教 河合 江実
 図書課 事務職員 山城えり子
 附属病院 歯科衛生士 木戸 滋子
 以上 H. 19. 6. 30付

委 嘱

歯科衛生士専門学校 校長 矢尾 和彦
 以上 H. 19. 4. 1付

客員教授 玉置 敏夫, 山下 敦
 矢尾 和彦, 末瀬 一彦
 宇山 昌延, 森 昌彦
 森井 外吉, 熊崎 護
 二階 宏昌, 北條 博一
 以上 H. 19. 4. 1付

Visiting Professor Harry L. Dougherty
 David R. Avery
 Chitta Ranjan Choudhury
 金 岩
 朴 榮 國
 申 濟元
 金 麗甲
 飯塚 建行
 以上 H. 19. 4. 1付

嘱託 カウンセラー 精神科医 森 悦子
 嘱託 臨床心理士 畑 聡美
 嘱託 医師 永井 由巳, 梅垣 裕
 奥田 隆彦, 桑田さおり
 藤田あすか, 西村 哲哉
 濱本由記子, 螺良 愛郎
 嘱託 歯科医師 近森 信人
 以上 H. 19. 4. 1付

病院医員
 歯内治療科 金子 真弓, 柿木 栄幸
 金村 香奈, 窪田 歩
 歯周治療科 ・ 元臣
 高齢者歯科 松本 誠二, 湊 万里子
 山内 聖恵, 寒川麻智子
 辻本 咲子, 村田 澄子
 補綴咬合治療科 (有歯) 高寄 直昭, 大野 裕之
 鶴身 暁子, 吉田 麻美
 山口 紗織, 藤野 英子
 補綴咬合治療科 (欠損) 小林 将之, 山本 高史
 高橋 美陽, 應谷 直里
 岩本統望子, 土居 朗子
 口腔外科第1科 青柳 信好, 橋本 佳明
 福地 和秀, 飯田 格
 田中 佐京, 小出 大至
 口腔外科第2科 田中 克弥, 本橋 具和
 山田 洋正, 室井 悠里

矯正歯科 北岸 恵帆, 木村 悦子
伊東 正記, 荒垣 芳元
勝見 友晴

口腔インプラント科 大口 直輝, 阪田 俊智
角倉 毅, 谷山 智秀

小児歯科・障害者歯科 山口 傑平, 国本 絢子
吉田 聡子

臨床研修教育科 木本 旭生

総合診療部診療科 樋口 恭子, 松枝 正樹

歯科麻酔科 松井 秀行, 平田 裕也
松田 佳子
以上 H. 19. 4. 1付

人事委員会委員 三谷 卓, 東野 隆
以上 H. 19. 4. 1付

業者登録選考委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

環境管理委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

自己点検運営委員会委員長 今井 久夫

自己点検運営委員会委員 田中 昭男, 堂前 尚親
井上 宏, 中村 正明
大東 道治, 矢尾 和彦
末瀬 一彦, 中村 廣志
東野 隆
以上 H. 19. 4. 1付

自己点検実施委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

枚方資料センター管理運営委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

財務企画委員会病院の運営に関する事項部会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

ODU ウェルネス・ホール管理運営委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

広報委員会委員 種坂 隆志
H. 19. 4. 1付

人権啓発推進委員会委員 辻 一起子, 東野 隆
以上 H. 19. 4. 1付

個人情報保護委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

個人情報保護委員会大学部門委員会委員 中村 正明, 牧谷 弘幸
以上 H. 19. 4. 1付

個人情報保護委員会病院部門委員会委員 東野 隆
H. 19. 4. 1付

個人情報保護委員会事務部門委員会委員 池田 良則
H. 19. 4. 1付

総務部委員会委員長 神原 正樹

総務部委員会委員 中村 正明, 田中 昭男
大浦 清, 川添 堯彬
井上 宏, 堂前 尚親
豊田 紘一, 小谷順一郎
田中佐和子, 中村 廣志
松村 誠一, 高須 聡
以上 H. 19. 4. 1付

廃棄物処理委員会委員長 神原 正樹

廃棄物処理委員会委員 池尾 隆, 井上 宏
川合進二郎, 田中佐和子
中村 廣志, 松村 誠一
大上 登
以上 H. 19. 4. 1付

教務部委員会委員長 中村 正明

教務部委員会委員 福島 久典, 池尾 隆
川合進二郎, 西川 泰央
森田 章介, 山本 一世
清水谷公成, 田中 昭男
以上 H. 19. 4. 1付

カリキュラム委員会委員長 福島 久典

カリキュラム委員会委員 中村 正明, 池尾 隆
川合進二郎, 西川 泰央
森田 章介, 山本 一世
清水谷公成, 田中 昭男
以上 H. 19. 4. 1付

臨床実習連絡委員会委員長 中村 正明
H. 19. 4. 1付

共用試験歯学OSCE実行委員会委員長 山本 一世

共用試験歯学OSCE実行委員会副委員長 米谷 裕之

共用試験歯学OSCE実行委員会委員

合田 征司,西川 哲成
吉川 一志,馬場 忠彦
高津 兆雄,岡崎 定司
田中 昌博,前田 照太
井関 富雄,松本 和浩
中嶋 正博,高橋 一朗
古跡 孝和,園本 美恵
百田 義弘

以上 H. 19. 4. 1付

共用試験歯学CBT委員会委員長 西川 泰央

共用試験歯学CBT委員会委員

檜 則章,豊田 紘一
藤原 眞一,檜枝 洋記
戸田 伊紀,岩井 康智
井上 博,合田 征司
和唐 雅博,山中 武志
篠原 光子,今井 弘一
三宅 達郎,白石 充
林 宏行,緒方智壽子
小野 圭昭,楠本 哲次
吉峰 茂樹,松本 和浩
・熊 雅彦,松本 尚之
板垣 恵輔,嘉藤 幹夫
杉岡 伸悟,大久保 直
以上 H. 19. 4. 1付

学生部委員会委員長 大東 道治

学生部委員会委員 岩井 康智,林 宏行
堂前 尚親,小正 裕
上田 雅俊,佐ノ木幸夫
以上 H. 19. 4. 1付

学内食堂管理運営委員会委員長 大東 道治

学内食堂管理運営委員会委員

井上 宏,岩井 康智
大久保 直,山中 武志
三宅 達郎,田中佐和子
中村 廣志,東野 隆
松村 誠一,西堤 京子
東 眞一郎
以上 H. 19. 4. 1付

図書館運営委員会委員長 堂前 尚親

図書資料選択委員会委員 柘植 昌保,藤原 眞一

岡村 英幸,玉田 善堂
相川 文子,内橋 賢二
田村 功,益野 一哉
杉森千恵子,野崎 中成
秋山 真理,土居 貴士
谷本 啓彰,稲本 雄之
田口洋一郎,浅井 崇嗣
藤井 孝政,吉峰 茂樹
田伏 信,堀井 活子
松本 尚之,白敷 慎也
板垣 恵輔,橋本佳代子
宮前 雅見,島津 薫
米谷 裕之,菊池 優子
山田 裕,岸本 直子

以上 H. 19. 4. 1付

教育情報センター管理運営委員会委員長

豊田 紘一

教育情報センター管理運営委員会委員

池尾 隆,小正 裕
清水谷公成,山本 一世
田中 昌博,嘉藤 幹夫
藤田 淳一,今井 弘一
戸田 伊紀,川崎 弘二
堀井 活子,松村 誠一
伊藤 淑子,三木 慶一
東 眞一郎,西本 敏彦
以上 H. 19. 4. 1付

学術研究奨励助成金交付審査委員会兼共同研究

助成審査委員会

委員長 川添 堯彬
委員 田中 昭男,大浦 清
西川 泰央,小谷順一郎
オブザーバー 今井 久夫

以上 H. 19. 4. 1付

国際交流部委員会委員長

諏訪 文彦

国際交流部委員会委員 川添 堯彬,覚道 健治
小正 裕,池尾 隆
藤田 淳一,方 一如
以上 H. 19. 4. 1付

公開講座委員会委員長 小正 裕

公開講座委員会委員 森田 章介, 田中 昭男
 諏訪 文彦, 西川 泰央
 清水谷公成, 山本 一世
 上田 雅俊, 藤原 眞一
 岡崎 定司
 以上 H. 19. 4. 1付

医の倫理委員会委員長 覚道 健治

医の倫理委員会委員 田中 昭男, 大浦 清
 諏訪 文彦, 井上 宏
 堂前 尚親, 川合進二郎
 樫 則章, 伊藤 淑子
 以上 H. 19. 4. 1付

健康管理委員会委員長 堂前 尚親

健康管理委員会委員 神原 正樹, 井上 宏
 大東 道治, 清水谷公成
 田中佐和子, 中村 廣志
 東野 隆, 高須 聡
 西堤 京子
 以上 H. 19. 4. 1付

平成19年度FD委員会委員長 森田 章介

平成19年度FD委員会委員 池尾 隆, 西川 泰央
 小正 裕, 小谷順一郎
 山本 一世, 林 宏行
 佐ノ木幸夫
 以上 H. 19. 4. 1付

ブラッシュアップ委員会委員長 林 宏行

ブラッシュアップ委員会委員 樫 則章, 岡村 英幸
 竹村 明道, 隈部 俊二
 内橋 賢二, 田村 功
 富永 和也, 山中 武志
 篠原 光子, 今井 弘一
 三宅 達郎, 吉川 一志
 馬場 忠彦, 高津 兆雄
 柿本 和俊, 楠本 哲次
 前田 照太, 松本 和浩
 窪 寛仁, 松本 尚之
 板垣 恵輔, 原 直仁
 杉岡 伸悟, 大久保 直

ブラッシュアップ委員会顧問

今井 久夫, 中村 正明
 以上 H. 19. 4. 1付

組換えDNA実験安全委員会委員長 福島 久典

組換えDNA実験安全委員会委員 田中 昭男, 神原 正樹
 和唐 雅博, 堂前 尚親
 川合進二郎, 樫 則章
 中村 廣志
 以上 H. 19. 4. 1付

サイバーキャンパス審議委員会委員長 神原 正樹

サイバーキャンパス審議委員会委員 川添 堯彬, 中村 正明
 田中 昭男, 井上 宏
 豊田 紘一, 堂前 尚親
 池尾 隆, 清水谷公成
 中村 廣志, 東野 隆
 松村 誠一, 安藤 孝幸
 三木 慶一, 西堤 京子

サイバーキャンパス審議委員会オブザーバー 今井 久夫
 以上 H. 19. 4. 1付

ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員長 田中 昭男

ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員 大浦 清, 諏訪 文彦
 井上 宏, 堂前 尚親
 覚道 健治, 川合進二郎
 樫 則章, 植木 哲
 野田 寛
 以上 H. 19. 4. 1付

動物実験委員会委員長 西川 泰央

動物実験委員会委員 大浦 清, 池尾 隆
 隈部 俊二, 森田 章介
 竹村 明道, 岡崎 定司
 西川 哲成, 川合進二郎
 樫 則章, 喜多 正和

動物実験委員会オブザーバー 吉田依里子
 以上 H. 19. 4. 1付

セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長 今井 久夫

セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員

神原 正樹, 大東 道治
 田中佐和子, 中村 廣志
 以上 H. 19. 4. 1付

ホームページ委員会委員長 神原 正樹
 ホームページ委員会委員 川添 堯彬, 中村 正明
 田中 昭男, 井上 宏
 豊田 紘一, 堂前 尚親
 池尾 隆, 清水谷公成
 中村 廣志, 東野 隆
 松村 誠一, 安藤 孝幸
 三木 慶一, 西堤 京子

ホームページ委員会オブザーバー 今井 久夫
 以上 H. 19. 4. 1付

第一学年 学年指導教授 池尾 隆
 助言教員 隈部 俊二, 藤田 淳一
 玉田 善堂, 岡村 英幸
 長家 秀博, 吉川 美弘

第二学年 学年指導教授 川合進二郎
 助言教員 内橋 賢二, 柘植 昌保
 相川 文子, 樫 則章
 藤原 眞一, 戸田 伊紀

第三学年 学年指導教授 西川 泰央
 助言教員 武田 昭二, 古川 智代
 川崎 弘二, 野崎 中成
 富永 和也, 合田 征司

第四学年 学年指導教授 森田 章介
 助言教員 三宅 達郎, 山中 武志
 今井 弘一, 篠原 光子
 井上 博, 和唐 雅博

第五学年 学年指導教授 山本 一世
 助言教員 高津 兆雄, 吉田 博昭
 岡崎 定司, 田中 昌博
 大西 祐一, 兼平 治和

第六学年 学年指導教授 清水谷公成
 助言教員 高橋 一朗, 田 匡宏
 原 直仁, 吉川 一志
 古跡 孝和, 橋本佳代子
 以上 H. 19. 4. 1付

学友会会長 新池 孜
 H. 19. 4. 1付

第6学年 e 1 プロジェクトチームチームリーダー

清水谷公成
 第6学年 e 1 プロジェクトチームサブリーダー
 池尾 隆

第6学年 e 1 プロジェクトチームチームメンバー
 樫 則章, 岡村 英幸
 上村 守, 相川 文子
 内橋 賢二, 富永 和也
 山中 武志, 野崎 中成
 武田 昭二, 川崎 弘二
 吉川 一志, 田 匡宏
 高津 兆雄, 柿本 和俊
 柏木 宏介, 西崎 宏
 松本 和浩, 大西 祐一
 蓮舎 寛樹, 板垣 恵輔
 原 直仁, 橋本佳代子
 以上 H. 19. 5. 10付

第6学年 e 2 プロジェクトチームチームリーダー
 福島 久典

第6学年 e 2 プロジェクトチームサブリーダー
 山本 一世

第6学年 e 2 プロジェクトチームチームメンバー
 樫 則章, 川合進二郎
 竹村 明道, 隈部 俊二
 西川 泰央, 池尾 隆
 田中 昭男, 篠原 光子
 中村 正明, 三宅 達郎
 馬場 忠彦, 上田 雅俊
 小正 裕, 田中 昌博
 前田 照太, 森田 章介
 蠅庭 秀也, 高橋 一朗
 清水谷公成, 人見さよ子
 加藤 裕彦
 以上 H. 19. 5. 10付

大学院委員会委員長 田中 昭男
 大学院委員会委員 中村 正明, 大浦 清
 諏訪 文彦, 西川 泰央
 川添 堯彬, 堂前 尚親
 大東 道治
 以上 H. 19. 4. 1付

中央歯学研究所委員会委員長 大浦 清
 中央歯学研究所委員会委員

西川 泰央, 森田 章介
 上田 雅俊, 川合進二郎
 篠原 光子, 今井 弘一
 好川 正孝, 隈部 俊二
 玉田 善堂, 富永 和也
 以上 H. 19. 4. 1付

中央歯学研究所画像処理施設長 玉田 善堂
 中央歯学研究所形態系研究施設長 玉田 善堂
 中央歯学研究所歯科生物学 I 施設長 富永 和也
 中央歯学研究所生体材料研究施設長 篠原 光子
 中央歯学研究所組織培養実験施設長 好川 正孝
 中央歯学研究所咀嚼機能研究施設長 篠原 光子
 中央歯学研究所低温実験施設長 今井 弘一
 中央歯学研究所動物施設長 隈部 俊二
 中央歯学研究所分析機器施設長 今井 弘一
 中央歯学研究所レーザー実験施設長 今井 弘一
 以上 H. 19. 4. 1付

画像処理施設管理運営委員会委員長 玉田 善堂
 画像処理施設管理運営委員会委員
 戸田 伊紀, 田村 功
 益野 一哉
 以上 H. 19. 4. 1付

形態系研究施設管理運営委員会委員長 玉田 善堂
 形態系研究施設管理運営委員会委員
 内橋 賢二, 河野 智生
 秋山 真理, 相川 文子
 上村 守
 以上 H. 19. 4. 1付

歯科生物学 I 施設管理運営委員会委員長
 富永 和也

歯科生物学 I 施設管理運営委員会委員
 山中 武志, 岡村 英幸
 澤井 宏文, 堂前 英資
 以上 H. 19. 4. 1付

生体材料研究施設管理運営委員会委員長
 篠原 光子

生体材料研究施設管理運営委員会委員
 武田 昭二, 野崎 中成
 吉川 一志, 益野 一哉
 以上 H. 19. 4. 1付

組織培養実験施設委員会委員長 好川 正孝

組織培養実験施設委員会委員
 井上 博, 野崎 中成
 橋本 典也, 川本 章代
 相川 文子
 以上 H. 19. 4. 1付

咀嚼機能研究施設管理運営委員会委員長
 篠原 光子

咀嚼機能研究施設管理運営委員会委員
 前田 照太, 田中 昌博
 岡崎 定司, 高橋 一朗
 藤本 哲也
 以上 H. 19. 4. 1付

低温実験施設管理運営委員会委員長 今井 弘一
 低温実験施設管理運営委員会委員
 山中 武志, 岡崎 定司
 鎌田 愛子, 魚部 健市
 大島 浩
 以上 H. 19. 4. 1付

動物施設幹事会幹事長 隈部 俊二
 動物施設幹事会幹事 篠原 光子, 西川 哲成
 戸田 伊紀, 田村 功
 成瀬 真弓, 大上 登
 以上 H. 19. 4. 1付

動物施設利用代表者会議委員長 隈部 俊二
 動物施設利用代表者会議委員
 篠原 光子, 西川 哲成
 戸田 伊紀, 田村 功
 成瀬 真弓, 大上 登
 檜枝 洋記, 高間 敬子
 山中 武志, 大島 浩
 川崎 弘二, 谷本 啓彰
 好川 正孝, 民上 良将
 岡崎 定司, 鳥井 克典
 畦崎 泰男, 松本 和浩
 蠅庭 秀也, 蓮舎 寛樹
 板垣 恵輔, 白敷 慎也
 加藤 裕彦, 澤井 宏文
 城山 明宏
 以上 H. 19. 4. 1付

分析機器施設管理運営委員会委員長 今井 弘一
 分析機器施設管理運営委員会委員

田村 功, 橋本 典也
 益野 一哉
 以上 H. 19. 4. 1付

レーザー実験施設管理運営委員会委員長
 今井 弘一

レーザー実験施設管理運営委員会委員
 辻林 徹, 武田 昭二
 柿本 和俊
 以上 H. 19. 4. 1付

臨床研修管理運営委員会外部委員
 江原 雄二, 山口 邦男
 田口 洋見
 以上 H. 19. 4. 1付

大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム

総括責任者 井上 宏
 副総括責任者 覚道 健治, 小谷順一郎
 単独型プログラム責任者 星野 茂
 単独型副プログラム責任者

成川 公一, 紺井 拓隆
 小川 文也, 大井 治正

複合型プログラム責任者 小正 裕
 院内研修担当者部会長 清水谷公成
 院外研修担当者部会長 小出 武
 保存系責任者 山本 一世
 補綴系責任者 川添 堯彬
 口腔外科系責任者 覚道 健治

複合型副プログラム責任者

白石 充, 畠 銀一郎
 上田 雅俊, 岡崎 定司
 楠本 哲次, 前田 照太
 虫本 浩三, 中嶋 正博
 神原 敏之, 古跡 孝和
 嘉藤 幹夫, 百田 義弘
 米谷 裕之, 井上 雅裕
 米田 護

指導歯科医 (単独型、複合型兼任)

井上 宏, 覚道 健治
 小谷順一郎, 清水谷公成
 小出 武, 山本 一世
 畠 銀一郎, 上田 雅俊
 岡崎 定司, 楠本 哲次

前田 照太, 虫本 浩三
 中嶋 正博, 神原 敏之
 古跡 孝和, 嘉藤 幹夫
 百田 義弘, 米谷 裕之
 永目 誠吾, 井上 雅裕
 星野 茂, 成川 公一

指導歯科医 (単独型)

紺井 拓隆, 辻 準之助
 福住 峯行, 小川 文也
 大井 治正, 北野 忠則
 菊池 優子, 黒川 千佳

指導歯科医 (複合型)

小正 裕, 川添 堯彬
 吉川 一志, 白石 充
 初岡 昌憲, 谷本 啓彰
 好川 正孝, 至田 宗泰
 西川 郁夫, 池永 英彰
 稲本 雄之, 田 匡宏
 緒方智壽子, 高津 兆雄
 河野 智生, 伊崎 克弥
 柿本 和俊, 小野 圭昭
 井上 太郎, 浅井 崇嗣
 川本 章代, 更谷 啓治
 柏木 宏介, 佐藤 正樹
 鳥井 克典, 田中 昌博
 土佐 淳一, 田中 順子
 藤井 孝政, 西崎 宏
 川野 晃, 畦崎 泰男
 吉峰 茂樹, 山本さつき
 井関 富雄, 田伏 信
 吉田 博昭, 熊 雅彦
 堀井 活子, 窪 寛仁
 舘庭 秀也, 大西 祐一
 濱田 充彦, 高橋 一朗
 四井 資隆, 林 靖久
 原 直仁, 園本 美恵
 人見さよ子, 白敷 慎也
 佐久間泰司, 杉岡 伸悟
 加藤 裕彦, 橋本佳代子
 辻 一起子, 辰巳 浩隆
 三ヶ山茂樹, 大西 明雄
 江藤 隆徳, 岩田 光生
 山田 裕, 米田 護

講師(非常勤)委嘱

解剖学講座

松本 晃一, 尾形 圭五
以上 H. 19. 4. 1付

古原 英男, 清水 孝治
蔵前 勝彦, 疋田 芳寛
島田 純治, 中村 雅彦
湯 兆舜, 江原 雄二
武田 憲明, 大塚 拓三
中道 哲, 北村清一郎
牧草 一人, 三宅 晴記
藤原 成樹, 松川 信夫
武田 安弘

口腔解剖学講座

藤井 征, 小林 徹
長楽 謙輔, 阪本 義之
鄭 在泳, 橋爪 年世
菊池 史郎, 李 炳漢
多田 逸, 荻田 雄紀
山本 洋幸, 松田 哲一
椿井 孝芳, 朱 成淑
藤原 士郎

生理学講座

杉村 忠敬, 新谷 衛
山本 修治, 岸 文隆
芳本 忍, 榎村 光仁
長谷川彰則, 大野 榮
高井 規安, 稲田 條治
陣内皓之祐, 小山 なつ
吉村 佳博, 岩崎 精彦
宮尾 治樹, 村上 浩孝
岩住 征紀, 樋口 恭子
森 明彦, 天野仁一朗

生化学講座

藤田 厚, 塩路伊佐子
前田 純典, 涌本 昇
長澤 成明, 畑下 芳史
梁川 国昭, 高石 佳知
小坂 広之, 奥田 裕司
高屋 毅史, 中川 雅夫
伊東 禎雄, 倉阪 雅巳
有山金一郎

口腔病理学講座

住谷 道夫, 岡下 守正
芦田 欣一, 善 睦彦
奥野 夏樹, 前田満里子

細菌学講座

新谷 牧, 岡村 敬次
松井 正剛, 川口 佳夫
武田 良一, 東浦 宏守
和田 聖二, 河原 康二
山根木康嗣, 佐久間 勲
筒井 淳, 西村 泰典
畑 慎太郎

井上 純一, 小川 敏
村松 洋司, 伊藤 康夫
西川 文男, 藤田 康一
水野 周二, 山本 範子
吉竹 弘行, 和手 甚京
松野 ・晃, 亀井 真紀
太田 利光, 多々見敏章
中沢 賢一, 小幡 登
廣畑 顕一, 森 直樹
石原 研

薬理学講座

石川 協, 大草 修
森川 裕, 岡本 卓士
九門 好彦, 前原 潔
井上 博明, 吉岡 三四
宮田 敏生, 坂本 伸人
武内信二郎, 高山 昭則
河野 元一, 村川 昇
田地 陽一, 狭川 正
林 昭典, 野阪ひとみ

歯科理工学講座

小室 智, 石崎 順啓
西田 堯吉, 今西 嘉次
川原 大, 五老海輝一
片岡 喜平, 三浦 康伸
森口 泰成, 上田 明博
寛 晋平

口腔衛生学講座

奥 忠之, 白石 雅照
今井 意晴, 野村 一夫
尾辻 淳, 藤井 由希
中川 哲也, 森野与史緒
熊崎 眞義, 村田 省三
井上 富夫, 小林 正憲
岡村 伸江, 奥村 信
日吉 紀子, 伊津 元博
平塚 靖規, 生内 信男

歯科保存学講座
 清水 一彦, 高島隆太郎
 小池 恭弘, 福島 重紀
 岩田 明, 河見 忠雄
 黒瀬 信隆, 谷 哲
 三木 秀治, 河村 昌哲
 藤田 昌弘, 福井 敬和
 小山内 惺, 藤原 秀樹
 吉原 正晃, 南 昌宏
 井上 昌孝

口腔治療学講座
 松田 毅, 藤田 智
 塩見 聰, 奥野 一吉
 細見 環, 速水 茂
 巖 恭輔, 上村 学
 寺田 行男, 金村 成智
 河津 正文, 山田 健蔵
 薄 孝, 逸見 浩史
 木村 喜彦, 上田 佳世
 辻 一郎, 吉川 伸
 堀 宏之, 松田 孝之

歯周病学講座
 横山 邦生, 林 正純
 南林 繁良, 中垣 直毅
 本城 範典, 西川 義公
 寺西 義浩, 畠山 善行
 松田 正文, 實重 英仁
 菅 人志, 神田 浩
 岡西 裕公, 釜谷 晋平
 白井 健雄, 光山 誠
 民上 良徳, 福永 剛士
 英保 武志

高齢者歯科学講座
 亀水 忠茂, 宮 博文
 浅井 加雄, 松尾 光至
 大槻 榮人, 田中 球生
 原 佳代子, 右遠 英悟
 額田 和門, 蘆田 貴司
 北山 展弘, 井上 愛
 上田 章浩, 氷見 彰敏
 村岡 正規, 高橋 一也

有歯補綴咬合学講座
 藤野 明, 鶴身 敬三
 辻 功, 松島 諒
 太田 邦雄, 佐川 寛一
 河野 亘, 水井 雅則

馬場 俊輔, 柳田 昌宏
 長砂 孝, 徳永 徹
 仲西 健樹, 田中 誠也
 瀧川 博嗣, 今井 敦子
 上田 直克, 佐古 好正
 木村 公一, 朴 康 鉦

欠損歯列補綴咬合学講座
 犬伏 義臣, 泉谷祐紀員
 加藤 博, 加藤 信次
 ・田 和也, 岡田 正傳
 奥田 昌義, 三谷 徹
 吉峰美千代, 奥田 啓之
 原 雄大, 藤原 到
 恩地 良幸, 池田 直也
 西川 敏文, 竜門 宏
 吉川 洋史, 島谷 肇
 上り口晃成

口腔外科学第一講座
 連 利隆, 島 盛隆
 大石 建三, 大杉 泰敏
 栗林 信仁, 古田 治彦
 佐々木 昇, 酒匂 潤
 小淵 匡清, 青柳 信好
 植野 茂, 浦 栄吾
 井上 明洋, 杉本 圭介
 卞 勝人, 福田あおい
 松本 康宏, 黒田 卓
 佐野 寿哉, 篠田 豊

口腔外科学第二講座
 仁木 寛, 有家 巧
 赤根 昌樹, 杉立 光史
 柚木 大和, 郷 真奈武
 林 秀一, 吉本 仁
 岩本守市良, 鹿野 学
 山崎 行庸, 岩崎 春美
 栗田 賢一, 正重 裕一
 森下 寛史, 田村 浩伸
 濱本 和彦, 阪本 貴司

歯科矯正学講座
 大浦 寿哉, 犬伏 俊嗣
 金 漢俊, 寺井 裕
 高橋 啓, 野田 真
 大塚 重雄, 飯田 拓二
 金 錫俊, 関 詔夫
 壺内 建行, 岡林 聰

ODU NEWS No.147

歯科放射線学講座	長屋 和也, 速水 勇人	医療人のための文章表現	石黒 義昭
	山本 昌宏, 岡下慎太郎	心理学	堀川 雅美
	玉田 亨, 荒垣 芳元	社会学	平 英美
	今井 一彦, 内海 潔	英語精読	中村 久男
	江原 昌弘, 田中 義弘	上級会話・リスニング	Richard Miller
	山崎 章, 木原 卓司	ドイツ語	吉田耕太郎
	川植 康史, 室井 誠	フランス語	中野康次郎
	松本 義之, 釜田 博史	中国語	王 標
	藤谷 富男	メディア論	羽田 潤
	小児歯科学講座	池本 博之, 石井 信行	源氏絵を読む
大道 士郎, 大谷 敬三		基礎情報科学	中村 民明
梶本祐一郎, 嘉ノ海龍三		基礎情報科学	中尾 泰士
佐伯 克彦, 高松 恒美		体育実技	松原 慶子
大東 美穂, 中村 弘之		体育実技	松本 和典
濱田 義彦, 保澤 静		講座所属外	
前田 光宣, 松尾 博之		外科学	稲本 俊
三戸 應則, 三村 雅一		外科学	山城 大泰
山尾 雅朗, 渡邊 邦一		医事法学	稲葉 一人
渡辺 景子		統計・医療統計学	有田清三郎
歯科麻酔学講座	留守 信興, 豊田 芳郎	法医学・法歯学	安原 正博
	中村 久美, 山田 隆造	小児科学	住本 真一
	坂尻 光春, 増井 雄治	皮膚科学	杉原 昭
	藤 喜久雄, 足立 了平	精神科学	上野 千穂
	橋川 直浩, 河合 峰雄	兼担者	
	金銅 英二, 古玉 克平	眼科学	岸本 直子
	水野 誠, 村田 賢司	口腔診断科	米谷 裕之, 辻 一起子
	姜 由紀		辰巳 浩隆, 三ヶ山茂樹
	高林 有道, 熊谷 俊一		大西 明雄
	根住 直史, 濱中大三郎	口腔インプラント科	江藤 隆徳, 井上 雅裕
内科学講座	岡崎 俊朗, 梅原 久範	歯科審美学	末瀬 一彦
	原川 奈梨, 米田 修		以上 H. 19. 4. 1付
	薬師寺健太郎, 奥田 恵子	高齢者歯科学講座	高橋 一也
	宮地 理彦		H. 19. 6. 1付
	田幡 純, 田幡 治	大学院歯学研究科	
	服部 一秀, 森本伊智郎	高齢者歯科学	岩山 和史, 楠 良子
	谷 泰一郎, 窪 盛偉		小石 同亮
	鎌田 守人, 山下 雅資	口腔外科学 (第二)	室井 悠里, 本橋 具和
	城戸 仁博	歯科麻酔学	諏訪 一郎
			以上 H. 19. 4. 1付
一般教育科目	人権論	病理学	螺良 愛郎
	文学	歯周病学	高橋 貫之

欠損歯列補綴咬合学

小林 将之

以上 H. 19. 5. 1付

歯科技工士専門学校講師(非常勤)

長家 秀博, 松原 慶子, 山本 卓世
 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一, 上野乃武彌
 川原 春幸, 中村 正明, 武田 昭二
 大島 浩, 都賀谷紀宏, 諏訪 文彦
 竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
 東 義景, 岩井 康智, 隈部 俊二
 豊田 紘一, 新池 孜, 川合進二郎
 樫 則章, 西川 泰央, 池尾 隆
 田中 昭男, 福島 久典, 神原 正樹
 方 一如, 川添 堯彬, 田中 昌博
 更谷 啓治, 楠本 哲次, 江藤 隆徳
 佐藤 琢也, 井上 宏, 前田 照太
 川野 晃, 山本さつき, 権田 悦通
 小正 裕, 小野 圭昭, 郷上 勲
 松本 尚之, 小谷順一郎, 北條 博一
 大東 道治, 嘉藤 幹夫, 竹安 正治
 山本 一世, 谷本 啓彰, 清水谷公成
 覚道 健治, 森田 章介, 宮川 千一
 高橋 恵美, 桑田 正博, 本多 正明
 山下 恒彦, 和田 弘毅, 足立 勝
 西村 徹, 河村 龍三, 大森 三生
 木本 吉昭, 加地 公夫, 西村 謙
 篠崎 照泰, 内木 雄一, 佐藤 繁男
 竹本 和司, 永井 利明, 西村 幸雄
 菊田 茂, 小山 和美, 吐山 寛
 宮川 浩司, 齊藤 俊文, 堀内 賢
 武森 政文, 中辻 孝一, 明崎 納
 辻 正敏, 東 宗秀

以上 H. 19. 4. 1付

歯科衛生士専門学校講師(非常勤)

川合進二郎, 岡村 英幸, 檜枝 洋記
 新池 孜, 藤原 眞一, 豊田 紘一
 下田 豊, 樫 則章, 松本 拓真
 石黒 義昭, 谷 康平, 山本 卓世
 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一, 長家 秀博
 岡本 恵, 諏訪 文彦, 竹村 明道
 戸田 伊紀, 玉田 善堂, 池 宏海
 上村 守, 西川 泰央, 内橋 賢二

池尾 隆, 田村 功, 鎌田 愛子
 吉川 美弘, 岩井 康智, 中塚美智子
 相川 文子, 田中 昭男, 西川 哲成
 福島 久典, 山中 武志, 大浦 清
 篠原 光子, 野崎 中成, 神原 正樹
 土居 貴士, 高島隆太郎, 川崎 弘二
 三宅 達郎, 野田 寛, 中村 亜紀
 今西 秀明, 福井 和枝, 入江 隆子
 中塚美智子, 井上 宏, 山本 一世
 井上 昌孝, 林 宏行, 今井 久夫
 上田 雅俊, 緒方智壽子, 小正 裕
 岡崎 定司, 森田 章介, 吉田 博昭
 大東 道治, 高橋 一朗, 柿本 和俊
 近藤ひとみ, 上根 昌子, 菅田 智美
 清水谷公成, 古跡養之眞, 米谷 裕之
 北條 博一, 小谷順一郎, 佐久間泰司
 川原 幹夫, 中村 正明, 武田 昭二
 末瀬 一彦, 前原 潔, 方 一如
 林 之寛, 宮本美千子, 藤林由利安
 高田橋美幸, 星野 茂, 紺井 拡隆
 小出 武, 嘉藤 幹夫, 馬場 忠彦
 畦崎 泰男, 辻 一起子, 福田 公教
 笠原 幸子, 森田婦美子, 西村 正喜
 林田 弓夫, 前田 哲志, 渡部 澄江
 岩橋 秀彰, 古川 正之, 杉山 淳彦
 小河 容子, 張木 康代, 大久保紀美子
 向 昭子, 平尾 一幸, 堂前 尚親
 大久保 直, 長野 豊, 宮前 雅見
 澤井 宏文, 岸本 直子, 森 悦子
 湊川 徹, 島津 薫, 北村 博彦
 江藤 隆徳, 井上 雅裕, 吉原 正彦
 今井 公一, 前田留美子, 小田見也子
 山下 政代, 久保 一代, 牧嶋 孝生
 近森 信人, 飯尾 尚子, 井本 眞弓
 岩佐 藍, 下川 泰子, 橋本 由日
 南部 智子, 森川 香純

以上 H. 19. 4. 1付

あとながき

平成18年度の決算が報告された。本学の財務状況に鑑み、大学は平成15年を基準として平成16年度から物件費を前年比5%、5%、10%削減することを予算方針としてきた。平成15年度の予算は講座関係の予算を除くと、29億2千万円で決算は26億2千万円であった。予算執行率は約90%である。平成16年度および平成17年度においては、いずれも前年比5%減が予算方針であったが、予算レベルでは若干下がっているものの決算では2年続けて支出額が前年度より増加しており、予算執行率が上がった（平成16年度93.3%、平成17年度95.5%）だけの結果となっている。大学全体として経費削減が実行されたとはいえなかった。

こうした状況を受け、理事長自ら機会あるごとに教職員に対し大学の財務状況について説明し、大学の財政を安定化させるための重要な措置として人件費の削減とともに経費削減への協力を要請してきた結果、徐々に大学全体に経費削減への意識が浸透してきた。平成18年度では、物件費の予算26億6千万円に対し決算は24億6千万円であった。予算執行率は92.3%である。平成15年度と比較して予算では8.9%、決算でも6.2%、1億6千万円が削減されている。平成17年度と比較すると、決算において9.3%、2億5千万円の削減となっている。

物件費の予算・決算(講座予算を除く)

	予 算	決 算	執行率
平成17年度	2,835,415,000	2,707,369,482	95.48%
平成18年度	2,661,665,000	2,456,188,504	92.28%
差 異	-173,750,000	-251,180,978	—
削減率	-6.13%	-9.28%	—

大学の方針を受け、事務各課がそれぞれの責任において業者との値引き交渉を行うなど、現状の業務内容を維持しながら経費削減に努めた結果が、大学全体での物件費の削減につながったといえる。こうした努力を続けていくことが重要であり、さらに予算・決算の乖離を少なくするため、各課での予算化の段階において経年的に必要な経費および中長期的に必要な経費を峻別して把握し、よりシビアな予算立をすることが必要である。

平成19年度は病院システムを更新する関係で全体の予算は増加している。しかし、予算にかかわる責任の所在を明確にし、予算・決算をコントロールしていくことはこれまで以上に必要とされる。さらに、各課における経費削減への努力が、大学全体での予算削減につなげていくことが大切である。各課の努力が全体に反映されればやりがいとなるであろうし、反映されなければ相互不信と混乱を招き、大学の掲げた方針も無に帰すであろう。

大阪歯科大学広報 第147号
 発行日 平成19年6月30日
 編集発行 広報委員会
 〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1
 電話 072-864-3111